



「社会知性の開発」新シンボル

2・3号館完成

生田キャンパス

アクティブ・ラーニングを支援

生田キャンパスの新しい学びの拠点となる2号館・3号館が完成した。アクティブ・ラーニングを支援する2号館と、「社会知性の開発」を象徴する3号館はつながり、学部生と大学院生、教員らが心地よく学習・研究し、発表、交流ができる空間となった。使用開始は4月から。

総延べ床面積は約9854平方メートル。

低層棟の2号館は地下1階、地上2階建て。音響・映像設備が充実し、学生参加型の創造的な授業を行う。収録スタジオや博物館実習室、展示実習室のほか、史学、地理学の実習室も備える。7階建ての3号館は大学院生の教室や教員研究室が中心となる。建物は、背後に広がる生田緑地の風景との共存を意識し、ガラス張りの、清新なデザインとなっている。

7 F	蒼翼の間		
6 F	教員研究室		
3 F	大学院生教室		
2 F	院生研究室	博士後期課程院生自習室、地理学空間情報処理室、史学古文書調査実習室、中教室など	
1 F	社会知性開発研究センター、大学院事務課など	LEARNING STUDIO 211	展示実習室、収録スタジオなど
B1F		LEARNING THEATER 201	Active! Studio202

3号館

7 F

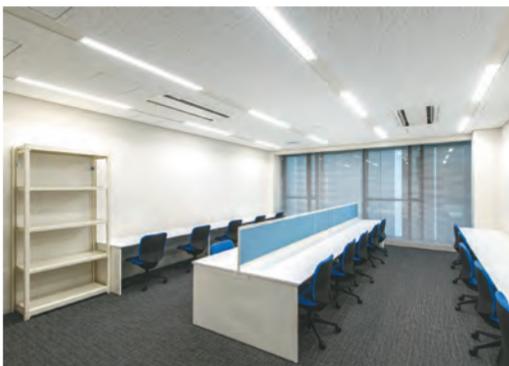
蒼翼の間



最上階のホール「蒼翼の間」は富士山や筑波山、都心や横浜の街が見渡せる絶景スポット。眺望を生かし、会議やレセプションなど多目的に利用する。蒼翼は「無限の可能性の象徴」。専修の蒼き翼の飛躍を願い、学生・教職員らの公募の中から命名した。

2~6 F

教員研究室・大学院生教室・院生研究室



3階は大学院の教室計9室、2階は院生研究室があるほか、2号館側に博士後期課程専用の自習室も。研究を深める思索のスペースが完成した。

2号館

30人定員の教室が並び、間仕切りをとればひとつの大きな空間として利用できる。ゼミナールでの議論やグループワーク、プレゼンテーションなど学生の活発な学習が期待される。

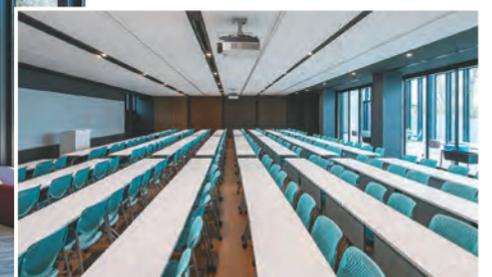


教室 2 F



アカデミーモール / LEARNING STUDIO 211

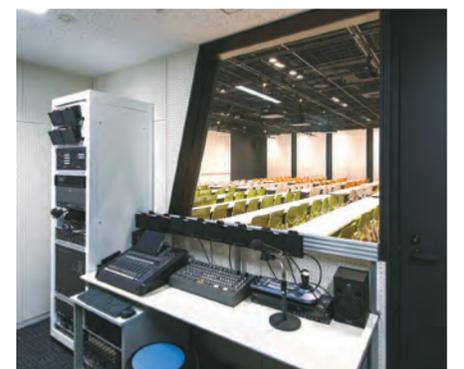
エントランスから200人規模のラーニングスタジオの前に広がるアカデミーモールは学生の交流、文化発信を促す。正門側の大きなガラス窓からは、穏やかな日の光が差し込む。



LEARNING THEATER 201 / Active! Studio 202

「表現」「創作」にこだわった学習支援機能を有し、音響・映像の設備も充実。授業はもとより、学内行事やサークル活動、公開講座などでも活用が見込まれる。

B1 F



生田緑地と共存する清新なデザイン

落成式

2月7日、落成式が行われ、日高義博理事長や佐々木重人学長をはじめ大学関係者、来賓約100人が出席し



たし写真。日高理事長は「東日本大震災により旧2・3号館は大きな損害を受け解体を余儀なくされた。この新2・3号館の完成により教育研究環境が一段と改善されることになった」と述べ、関係者に感謝の意を表した。川崎市の福田紀彦市長が祝辞の後、佐々木学長が「これからわれわれの役目はこの素晴らしい校舎に魂を吹き込むこと。新しい教育システムのあり方を象徴する校舎にしたい」と語った。